

ありまふじ里山だより

Vol.15

『ありまふじ里山だより』では、棚田里山エリアの自然の様子や里山保全に向けた取り組みについてご紹介します。Vol.15は古代米の脱穀作業と、低林管理実験区の植生調査の様子についてお届けします。



古代米の脱穀

棚田で古代米づくりをしている「自然の学校」との初コラボとして、脱穀作業をお手伝いしました。

はざ架けしていた稲を機械にかけ脱穀。残ったワラは押切りをつかって細かく切り、田んぼに戻します。これがやがて栄養となり、また来年も実りをもたらしてくれます。まさに自然の循環にそった米づくりです。

萌芽再生状況の調査

昨年12月に伐採をおこなった低林管理実験区では、専門家の指導のもと萌芽再生状況の調査をおこないました。

切り株ごとに萌芽再生の有無、萌芽枝の本数、萌芽枝の長さなどを調べました。

多くの切り株が萌芽再生しており、最も成長しているものでは、萌芽枝が1.3mもありました。また、萌芽枝が途中で枯れるなど、うまく再生しなかった場合に備え、コナラ実生を育てる取り組みも。実生にマーキングをおこない、誤って刈ってしまうことを防ぎます。

実験区では日があたるようになったことで植生が増加し、スミレやノイチゴなどが新たにみられるようになりました。